

100 100年ライフに向けた政策ビジョン

～スマイル100歳へ 40歳(壮年期)からの第一歩～

概要版

1 人生100年時代って何？

- 本市の総人口は減少傾向にありますが、高齢者人口は今後も増加が進み、2040年頃にピークを迎えます。
- 本市の100歳以上人口は「平成」の30年間で約38倍に増加しており、まさに「人生100年時代」が到来しようとしています。
- 元気で経験や知識を豊富に有する高齢者「アクティブシニア」が増加し、今後、大いに活躍することが期待されています。
- その一方で、将来の不安や新たな課題が発生してくる可能性があります。

～ 想定される不安や課題 ～

介護離職

8050問題

ずっと元気で
いられるのだろうか？

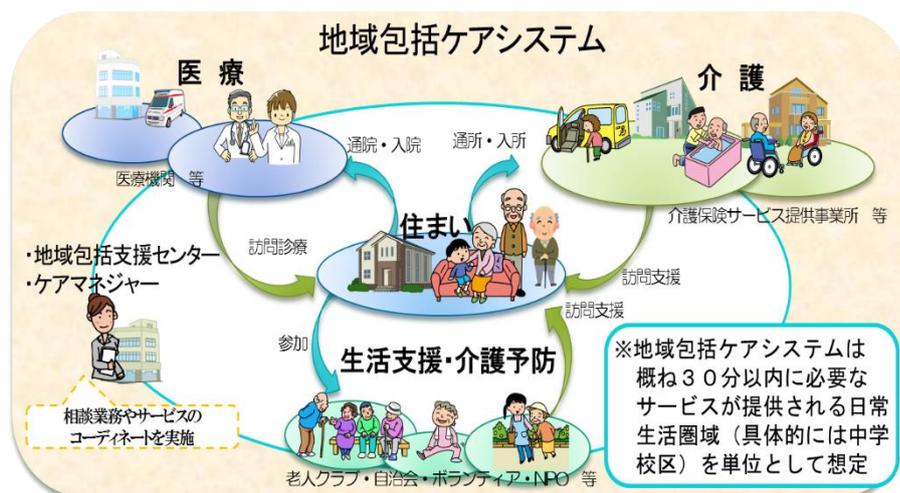
階段や段差があるけど
今の住まいで暮らして
いけるのだろうか？

退職したら
老後のお金は
大丈夫だろうか？

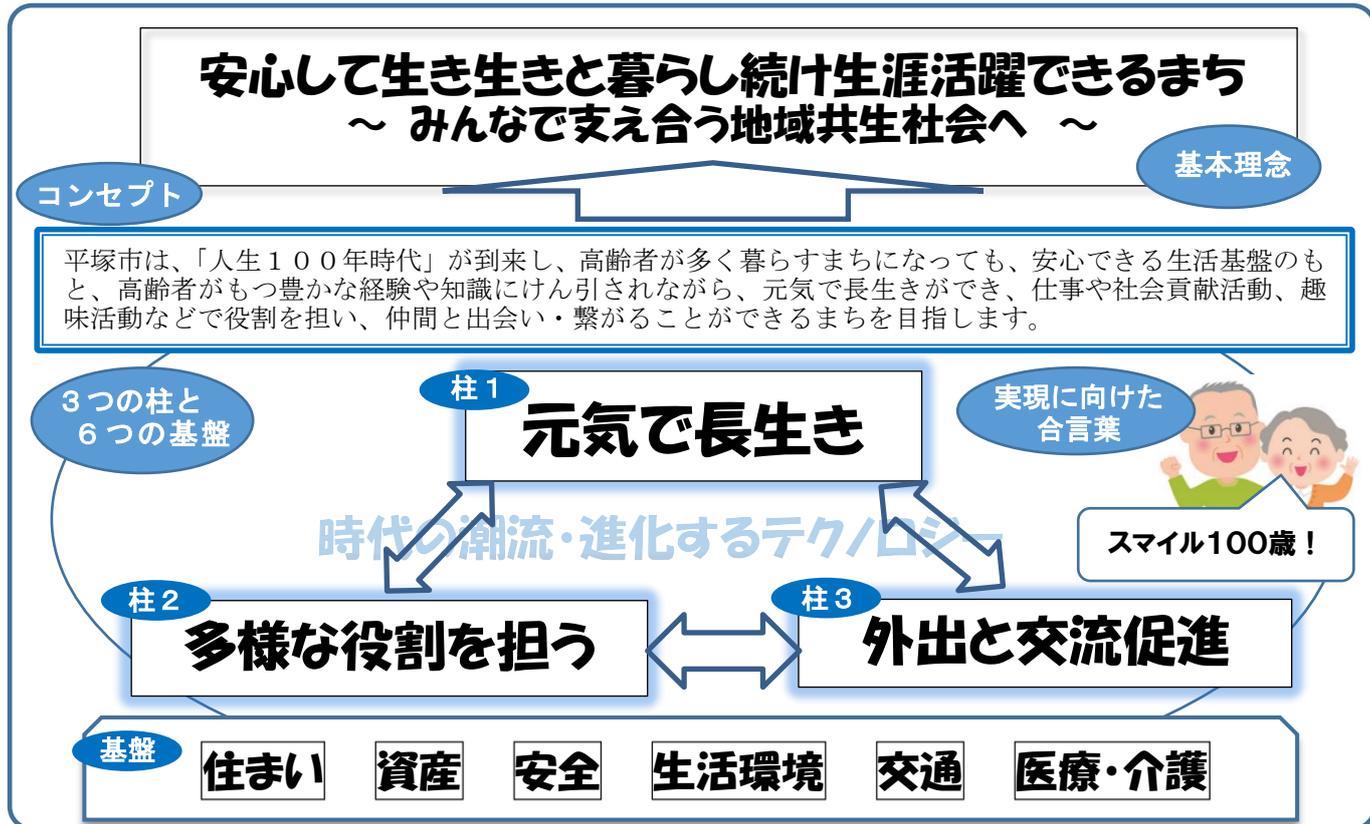
介護が必要になったら
支えてくれる人は
いるだろうか？

2 どのように課題を解決していくのか？

- 高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けられるための仕組みである「地域包括ケアシステム」の考え方を、まちづくり全般で展開していきます。
- 2040年頃を基準に、将来のあるべき姿を考え、そこに近づくために今から何をすればよいか検討する「バックキャストイング」手法により、課題と現時点からの取組を整理します。
- 市民の一人一人の早期からの取組は課題解決の原点であり、壮年期を迎える40歳をスタート時期として、「人生100年時代」に向けた取組の第一歩を踏み出します。



3 目指すべき将来像の実現に向けて



「3つの柱」と柱を支える「6つの基盤」ごとに課題と改善の方向性を整理し、【40歳（壮年期）から】【アクティブシニア】【支援が必要な高齢者】の3つの状況から、目指すべき将来像と今から進める取組の方向性を示します。

柱1 元気で長生き

できるだけ元気でいられる期間を延ばし、充実した100年ライフを送ることができるよう、早い段階から、健康寿命の延伸に向けた取組が求められます。

柱2 多様な役割を担う

仕事や趣味、社会貢献など様々な場面で自分らしく役割を担い続けることができるよう、知識・技術の習得等、自分磨き（準備）をしておく必要があります。

柱3 外出と交流促進

いつまでも人とつながり、居場所を確保しながら、社会性や心身の健康を維持していくことができるよう、ニーズに応じた外出と交流の促進が求められます。

基盤 住まい、資産、安全、生活環境、交通、医療・介護

住まい、道路のバリアフリー化、買い物時等の移動、資産管理や犯罪、災害への対応、在宅生活を支える医療・介護サービスの充実など、生活基盤上の様々な課題について、進化するテクノロジーや支援体制等を活用しながら対応していくことが求められます。

一人一人が、自分らしく充実した100年ライフを送るため、平塚市は全庁体制で市民の皆さんと「スマイル100歳」社会の実現を目指して第一歩を踏み出します